

社会科部会

研究主題

調べたことをもとに自分の見方や考え方を深め表現する力を高める指導

1 主題について

今年度はこれまでの研究の成果と課題を踏まえ、学習で獲得した思考の深まりを効果的に表現する力を高めるため、その手立てを工夫することに重点を置いて研究をすることにした。

2 今年度の取組

月 日	実践内容	月 日	実践内容
4月13日	第1回総合研究会 研究主題設定・年間計画作成	10月25日	第2回総合研究会 授業研究会（城南小学校）
9月26日	指導案検討会（城南小学校）		

3 研究内容

(1) 授業研究

- ・期 日 平成23年10月25日（火）
- ・会 場 城南小学校
- ・単元名 3年「大館市のようす」
- ・授業者 田村 秀人

① 授業者から

- ・昨年度、教育センター研修員として学んだことをもとに、ソーシャルスキルなどの「人とのかかわり」をテーマに授業を進めてきた。本時もそこを意識して授業を構成した。
- ・交流を通して新しい発見や気づきが得られた姿が、各自の考えに深まりを得られた姿ととらえたいので、紹介し合う活動を設定した。
- ・見学の段階では、城南地区と違う所を基準に5地区を選択し、全員で全ての地区を回った。
- ・各地区の特徴が見学や見学を振り返ってまとめたことで詳しく分かっていたため、本時での驚きや感動が少なくなってしまった。
- ・男女の交流にこだわりすぎたため、相手がいなくて話し合いが滞った場面があった。自由に話させた方がよかった。

② 協議

- ・掲示物や映像資料が豊富で、児童にとってよい支援になっていた。
- ・ランキングをさせたことが興味を高めるために有効であった。3つにしぼったこともよい。
- ・ランキングの視点が自分の好みになっていたが、お父さんだったらとかおじいさんだったらというような、立場を決めて考えさせてもよかった。自分じゃない目線をもたせたい。
- ・ランキングではなく、キャッチフレーズを考えさせることも有効ではないか。地区の違いを特色ごとに分類できる。
- ・振り返りの具体的な視点を与えた方がよかった。社会的な振り返りができたのではないか。
- ・「よさ」以外も調べて社会を全体的にとらえさせる、広くとらえることも必要。
- ・個人対個人で交流を行っていたが、グループでランキングの理由を考えさせることで、よ

り思考の深まりが期待できたのではないか。

(2) 指導助言 (多賀谷 雅人 指導主事)

① 単元について

- ・ 学習指導要領における目標は、「場所によって違いがあることが分かる」である。土地の高低などの地形的条件や、駅前や大きな道路に面しているなどの社会的条件について考えさせることが大切である。
- ・ 「学校のまわり」と「市のまわりのようす」という小単元を1つのまとまりとして構成することが大切である。2つに分けて学習している実践が多いが、そのことで評価規準が重複しないようにしたい。



【ランキングの交流】

② 本時について

- ・ 前時までの学習で、児童は場所による違いをよく理解していた。
- ・ 映像資料が効果的であった。また、板書も構造化されていてよかった。
- ・ 城南地区から見た各地域の方位を確かめる活動も導入で取り入れたい。その際には北と東で言い表せない方位についても触れていきたい。
- ・ 地域のよさに着眼させるランキングによって、児童の関心・意欲を高めることができた。ただ、本時の活動が前時の繰り返しになっている面があった。
- ・ 本時は、住みたい理由という社会的条件を考えさせた。ただ、「病院や店が遠い」「虫取りができるかもしれないが、住む必要はない」など、住むには不便という社会的条件も考えさせて、思考を揺さぶりたかった。
- ・ 将来的には過疎化や少子高齢化の学習につなげる糸口にして、小学校3年生なりに社会の切実な問題にも切り込んでいきたい。そのためには、ランキングを黒板に集計し提示するなどして、全員で話し合う場面が必要だった。
- ・ 伝え合う言語活動がよかった。ランキングの理由を聞くだけでなく、それに対して感想も伝えている児童もいた。
- ・ 系統性をふまえた単元構成をしてほしい。生活科でも学校の周りを探検し、児童の個人的経験と結び付けて学習する。3年生の社会科は、社会的な条件と結び付けて学習させることが大切である。5・6年生、中学校へとつながる教材研究をしてほしい。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・ ランキングを取り入れたことで児童の興味・関心が高まり、主体的に学習に取り組む姿勢が見られた。また、それぞれの考えを交流し合うことで様々な考え方に触れられ、個々に考えを深めることができた。

(2) 課題

- ・ 本時ではランキングの理由に地形的条件や社会的条件が含まれていなかった。社会的な視点を大切にし、考えに深まりをもたせる必要がある。